

総合計画審議会から 答申されました



めざすまちの姿

住みたい
行きたい
帰ってきたい
まち
小諸

第5次基本構想については、これまで市民の皆様との協働により進めてきた様々な策定作業を経て、昨年12月22日に開催された総合計画審議会において、柳田市長より第5次基本構想策定についての諮問がなされました。その後、5回にわたる審議会での議論が行われ、2月9日に開催された審議会において、西村廣一会長より柳田市長へ、「基本構想案の内容については基本的に妥当であると認められる」との答申書が手渡されました。

市長はお礼のあいさつとして、「この計画を計画のままで終わらせることが決してないように、また、皆様のご努力を無にすることが決してないように、市民の皆様を始め、関係する皆様と共に、引き続き参加と協働のまちづくりにより、計画の実現に向けて取り組んで参りたい。」と述べました。

第5次基本構想は、平成28年3月議会へ上程され、議会での議決がされると、正式に決定となります。

計画内容の詳細につきましては、正式決定後、改めてお知らせします。

▼問い合わせ先 企画課 行政経営係

第5次基本構想について

総合計画審議会会長 西村 廣一



第5次基本構想については、昨年12月から5回の審議会を経て、このたび柳田市長宛に答申することができました。これも偏に市民の皆様、市長をはじめとした行政の皆様、「これからの小諸をこうしたい」という熱い思いがあつてこそ、できあがったものと思います。本構想は「市民参加・市民協働」での、小諸市として最初のものといえます。また、その取組みは緒に就いたところとはいえ、大いに評価に値します。

少子高齢化が益々進行することが予想され、グローバル化が当たり前になった時代。これからの時代を生き抜くために、全国の市区町村が、様々な取組みをしていきます。小諸市が更に「魅力あるまち」となり、他に秀でるためには、本構想を如何に実現していくかにかかっています。この基本構想を見る限り、他の市区町村には半歩、いや数歩はリードしていると確信いたします。ここからは、強いリーダーシップのもと、市民と行政が「本気度」をだして実践するしかありません。私事で恐縮ですが、平成16年から22年まで市内の高校に勤務し、3年前からは小諸市総合計画審議会で審議委員をいたしております。「大好きな小諸」が、今まで以上に活気があつて、「まち」になってほしいとの想いで応援しておりますが、ここに来て「人材」いや「人財」の大切さを痛感しております。これからの時代を担う「子どもたち」への教育こそが「人財づくり」の第一歩です。小諸教育の充実を強く望みます。

「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち」をめざした小諸。平成39年（第5次基本構想の最終年度）を大いに期待します。